

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-75	A-77	15-023 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol and cardiovascular diseases: where do we stand today? アルコールと心血管疾患：今日の立ち位置は？		
執筆者		
Klatsky AL.		
掲載誌		
J Intern Med. 2015 Sep;278(3):238-50. doi: 10.1111/joim.12390.		
キーワード		PMID
アルコール摂取、心血管疾患、疫学、リスク因子		26158548
要 旨		
<p>目的： アルコール摂取と心血管リスクの関連について様々な報告があり、公衆衛生学の領域では議論の余地がある。アルコールについての議論は日々変化しており、歴史的側面も含めて考察する。</p> <p>方法： これまでに報告されたアルコールに関連する論文について review する。</p> <p>結果： 過度のアルコール摂取（基準量の 3 倍以上）は心血管および非心血管リスクを高めるとの報告がある。一方、軽度から中等度飲酒者では心不全を含めた冠動脈疾患(CAD)のリスクが低下することが疫学研究より明らかとされている。しかし、低飲酒者が脳出血以外の心血管リスクと関連するかどうかは明らかではない。また、アルコールが CAD に対して保護的であるというメカニズムは報告されているものの、他の心血管リスクと関連しているかは不明である。このように、心血管の状況の相互関係はアルコール関連疾患に影響を与える。例えば、軽度から中等度飲酒者は CAD リスクが低いが、このことは心不全のリスク低下と関連する。また、国際比較のデータから、ワイン（特に赤ワイン）のアルコールでない物質の有効性が示され、ワインにはアルコールに加えた CAD 保護作用がある可能性が報告されている。しかし、ワイン飲酒者の健康的な飲酒パターンや体質が交絡する可能性がある。</p> <p>結論： アルコールと心血管疾患との関連についてのメカニズムや公衆衛生的な問題に関する議論は今後も継続し行われるだろう。</p>		